

CHICHIBUGAHAMA BEACH

父母ヶ浜環境学習BOOK

CHICHIBUGAHAMA BEACH

香川県三豊市詫間町松崎1642番地2(JR詫間駅横)

HP <https://www.mitoyo-kanko.com>

Design&Illustration:住野真紀子デザイン室



父母ヶ浜

CHICHIBUGAHAMA BEACH

父母ヶ浜の美しい浜辺は三豊の日常に寄り添う身近な浜

子供たちの楽しい思い出が詰まった海水浴の浜

誰もいない早朝に素足で歩いて気持ちが良かった散歩の浜

美しい夕陽を見ながら故人をしのんだ惜別の浜

あなたにとっての父母ヶ浜はどんな浜ですか？

父母ヶ浜の名前について

- 1 明治時代には潟(かた)とも呼ばれ、南潟、北潟、前潟、奥潟とエリア分けされ魚や貝がいまどこで沢山獲れるかを伝えるためにも使われていた。
- 2 仁尾町天王(てんのう)地区にあることから天王海岸とも呼ばれる。
- 3 香川県港湾課の正式名称は仁尾海岸父母ヶ浜地区である。現在は父母ヶ浜(ちちぶがはま)が最も一般的な名称である。

仁尾の昔話(父母峠の身代わり地蔵)

仁尾のええとこ探偵団作成紙芝居からの抜粋

失踪した最愛の息子を探す旅に出た夫婦は失意のまま仁尾にたどり着きます。夫婦は父母ヶ浜近くのお峠にあるお寺のお堂で一夜を明かし、子供が見つかるよう寺のお地蔵さんに懸命に祈りました。悲しいことにその晩、夫婦は賊によって刀で切られたのですが、不思議なことに夫婦は翌朝何もなかったように目が覚め、気が付くと傍らには首を切られたお地蔵さんが転がっておりました。夫婦は身代わりになってくれたお地蔵さんをねんごろにお礼のお参りをしました。あとでこの賊が我が子だったことが分かり、息子は仏の慈悲で罪を犯すことなく、心底改心したそうです。この峠は「父母峠」と呼ばれ、お地蔵さんは「身代わり地蔵」として大切にお祀りされています。



昔の仁尾海水浴場での潮干狩り風景



現在の父母ヶ浜ポートが出来る前の海水浴場の桟敷

埋め立て阻止と環境保全活動

1994年頃、浜の埋め立て構想が浮上し、それは工場誘致視野の大規模なものでした。地元住民は浜を守るため「ちちぶの会(当時名称:父母海岸を愛する会)」を立ち上げ、住民による浜の清掃活動が始まりました。

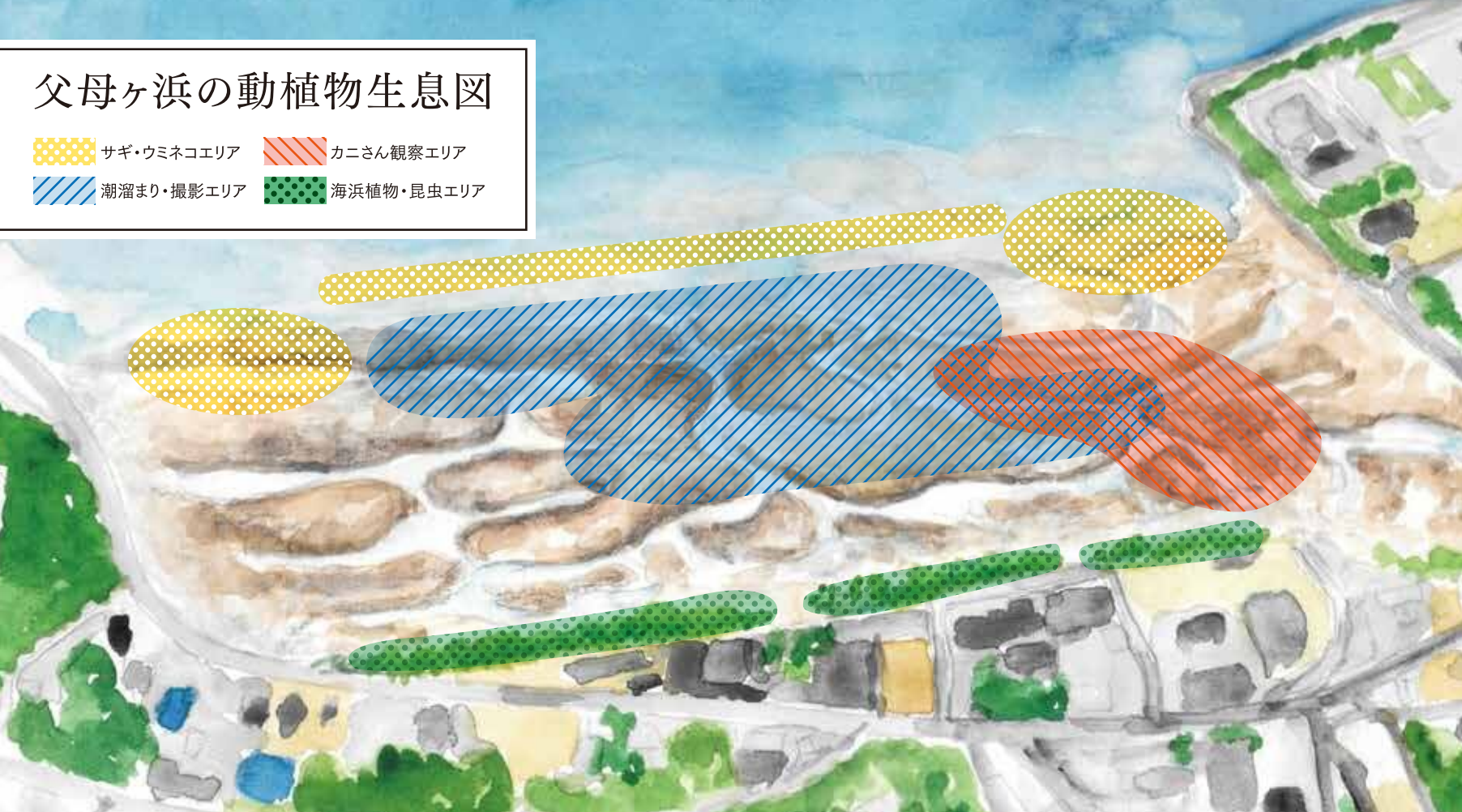
2000年になると埋め立て規模が縮小された護岸改修に合わせた「憩いの場」を作る計画になりますが、地元住民の浜を守る思いはますます高まり、行政も住民の声を真摯に聞く姿勢が生まれることで、最終的には住民の思いは通じ、計画は中止となることで浜の環境は守られました。



2001/1/22四国新聞

父母ヶ浜の動植物生息図

- サギ・ウミネコエリア
- カニさん観察エリア
- 潮溜まり・撮影エリア
- 海浜植物・昆虫エリア



父母ヶ浜 環境学習BOOK 目次

- 02 はじめに
 - ・仁尾の昔話
 - ・埋め立て阻止と環境保全活動
- 04 父母ヶ浜の動植物生息図
 - ・潮の満ち引きタイムラプス
 - ・だるま夕日
- 06 教えて!長谷川先生
- 08 守っていききたい!父母ヶ浜の動植物
 - 10 海浜植物
 - 12 貝類
 - 14 甲殻類
 - 16 昆虫類
 - 18 鳥類
- 19 父母ヶ浜沖で会えるお魚たち
- 19 父母ヶ浜で遊ぼう!
- 20 父母ヶ浜絶景写真館
- 22 漂着物のおはなし
- 22 ちちぶの会のヒーロー速雄さん
- 23 終わりに



Time-lapse

動画で潮の満ち引きを見てみよう!

海面の水位(潮位)は約半日の周期でゆっくりと上下に変化します。潮位が上がりきった状態が「満潮」、逆に下がりきった状態が「干潮」です。満潮/干潮の時間は毎日変化しますので、遠浅の父母ヶ浜で遊ぶには干潮時間の確認が必要です。タイムラプス動画で潮の満ち引きを見てみよう。

QRコードで動画ページへ行くことができます。



日本の夕陽百選 だるま夕日

通常、光は直線に進みますが、空気密度の違う層を通ると屈折します。寒い冬には上空の大気と海水面の温度差ができ、空気の層に違いが生まれるため「だるま夕日」という現象が起きます。

2月、10月の条件の整った限られた日に「だるま夕日」が見られることがあります。





教えて！長谷川先生！

なぜ父母ヶ浜には遠浅の海岸ができ、
鏡面のような潮溜まりが生まれるのですか？

香川大学四国危機管理教育・
研究・地域連携推進機構 副機構長
讃岐ジオパーク構想推進準備委員会 委員長

父母ヶ浜の地形的特徴①

砂浜海岸でなく干潟海岸です。

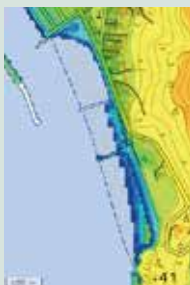
干潟とは：

潮間帯に形成される砂や泥からなる広く平坦な部分で、潮汐低地、潮汐平野ともいいます。低潮時には広く露出して、表面にはみお筋（水が流れる筋）やリップルマーク（峰と谷が規則的に配列した小規模な堆積構造）が発達します。

父母ヶ浜（干潟海岸）



大浜海岸（砂浜海岸）

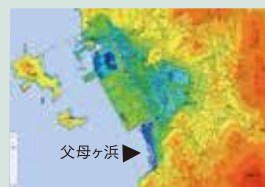


（国土地理院地理院地図/自分で作る色別標高図）

父母ヶ浜の地形的特徴②

仁尾湾は大鷲島と小鷲島とつながる大きな干潟です。

干潟の主体部は入浜式塩田として利用されましたが、1970年代に埋め立てられました。しかし、南部の父母ヶ浜は埋め立てから免れました。



（国土地理院地理院地図/自分で作る色別標高図）（海上保安庁/海図（燈灘東部））

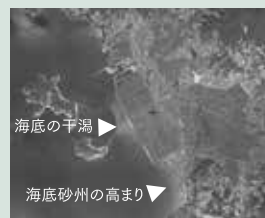


父母ヶ浜の地形的特徴③

海底の干潟は航空写真から読み取ることができるほど浅いです。

航空写真で、明るい色をした海底が干潟です。干潟の沖合には海底砂州の高まりがあります。

1960年代の航空写真



（国土地理院地理院地図 年代別の写真）

1970年代の航空写真



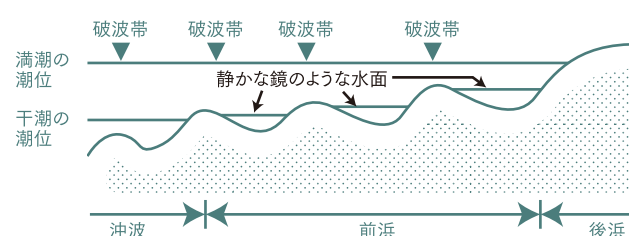
父母ヶ浜の地形的特徴④

海底砂州が砕波帯となって波を弱くします。



父母ヶ浜で鏡のような水面ができるわけ

潮が満ちるに従って破波帯が陸側へ移動する



仁尾湾は大鷲島と小鷲島とつながる大きな干潟です。

このような干潟ができたのは、大鷲島と小鷲島が湾口のいい場所にあったからです。

干潟の主体部は入浜式塩田として利用されましたが、1970年代に埋め立てられました。

しかし、南部の父母ヶ浜は埋め立てから守られたため、貴重な干潟が残されました。

父母ヶ浜は遠浅の干潟で、干潮時には峰と谷が交互に配列したみお筋が現れ、谷に残った海水が鏡のような水面になります。

干潮時に干潟に波が来ないのは、その沖合にある海底砂州が砕波帯（天然の消波帯）となって波を打ち消しているからです。

検証はできていませんが、仁尾湾で夕凧が顕著に現れる要因として、湾口にある大鷲島と小鷲島の影響が大きいと思われます。もし、山と海との地形のコントラストが大きいと、昼の海風から、夜の陸風への移行がスムーズですが、湾口に2つの島があると、湾は海の温度効果に陸の温度効果が相殺されて、夕凧が顕著に表れるのではないかと考えることができます。

もしそうなら、大鷲島と小鷲島は干潟の形成と夕凧の発生の両方に大きな影響を与えたと考えられます。

父母ヶ浜は大鷲島と小鷲島の賜物と言えるかもしれません。

.....

守って
いきたい!

父母ヶ浜の動植物

CHICHIBUGAHAMA BEACH

美しい自然が豊かな父母ヶ浜にはたくさんの動植物が息づいています。
これからもずっとこの動植物たちが父母ヶ浜で暮らしていけるように
私たちが自然を守っていききたいですね。さて、今日は何が見つかるかな？



守って
いきたい!

父母ヶ浜の 海浜植物

Beach plants



ハマスゲ(カヤツリグサ科)
おもに海岸でみられる高さ20~40cmの多年草。地下茎をのばして、塊茎をつける。根茎の肥大部を香附子とよぶ薬用に利用される。

花 期
7~10月

オカヒジキ(ヒユ科)
日当たりの良い海岸の砂浜や砂礫地、塩生地等に生育する一年草。

ツルナ(ハマミズナ科)

花 期
5~10月

多肉で海岸の砂地に生え、食用にもされる多年草。日本各地の海岸の砂地や礫地に群生して自生する。主に太平洋沿岸の熱帯から温帯の海岸に広く分布する。

ハマボウフウ(セリ科)

海岸地帯に自生し、カムチャツカ半島以南、日本では北海道から南西諸島にかけて分布。近年、海浜の浸食等で自生地が著しく減少している。

花 期
5~7月



コウボウシバ(カヤツリグサ科)
海岸の砂地に普通に見られる多年草。太い地下茎を伸ばし、丈の低い茎と革質の葉を出す。

花 期
春~初夏



花 期
夏~秋

ホシアサガオ(ヒルガオ科)
熱帯アメリカ原産の帰化種。北米、東南アジア、オーストラリアに広く帰化している。

ハマダイコン(アブラナ科)

花 期
4~6月

日当たりのよい砂浜などに自生する。栽培種と比較してかなり硬く、辛味も強い。古い時代に地中海沿岸から中国を経由して入ってきた野生ダイコンが起源であるとする説がある。



花 期
4~5月

コウボウムギ(カヤツリグサ科)
砂浜に生育する、代表的な海浜植物。比較的良好に発達した砂浜でしか見かけることが少ない。砂の中に長く匍匐茎を伸ばし、葉は黄緑色でつやがあり、厚みがあって硬く、先端へと細まって巻く。葉の縁にはざらつきがある。

ハマエンドウ(マメ科)

北海道から九州までの日本各地の海岸に分布する海浜植物。果実には下半身が麻痺するラチリズムを引き起こすオキサリジアンノプロピオン酸などの毒成分を含む。

花 期
4~7月



花 期
5~6月

ハマヒルガオ(ヒルガオ科)

海岸の砂浜に群生し、時には湖や川の岸にも出現する。砂地にきれいな花をつけるのでよく目立ち、画材や図案等に取り上げられる。歌では『君の名は』に「~に聞いてみる」とあるのが有名。要注意外来生物のコマツヨイグサの増加により本種は著しく減少している。

ハマゴウ(シソ科)

海岸の砂地に群生することが多い落葉低木。茎は地面を這い、半ば砂に埋もれて伸びる。

花 期
夏~初秋



花 期
4~5月

オオバナコマツヨイグサ(アカバナ科)

北アメリカ原産の帰化植物で、道端、野原、空き地、海岸付近に生える2年草。



ホコガタアカザ(ヒユ科)

ヨーロッパ原産の帰化植物。海岸の裸地や海岸埋立地に群生する1年草。

花 期
9~11月





殻 幅
2cm前後

イボキサゴ(ニシキウズガイ科)

光沢のあるそろばん玉に似た形をしている。
中~低潮帯表層に浅く埋没して生息し、
多い時には一掘りで10個体以上が採集される。
打ち上げられた殻はよく見かけられるが、
最近は生息数が少なくなった。
環境が良好な前浜干潟を特徴づける種のひとつ。



マルウズラタマキビ
(タマキビガイ科)
個体数が多い岩礁性で
乾燥に強い巻き貝。

殻 高
1.5cm前後

タマキビ
(タマキビガイ科)

個体数が多い岩礁性で
乾燥に強い巻き貝。

殻 高
1.5cm前後



殻 幅
4.5cm前後

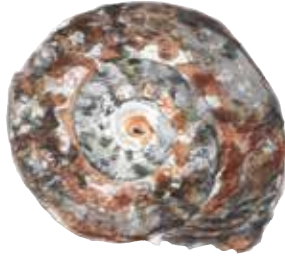
オキシジミ
(マルスダレガイ科)

やや大きくて目立つ汽水性の二枚貝。

スガイ(リュウテン科)

潮間帯に生息し、
イボシなどともに
磯に普通に見られる種の一つである。
個体数が多い。

殻 幅
2.5cm前後



殻 幅
2cm前後

ユウシオガイ(ニッコウガイ科)

殻長15mm程度、殻表には
強い真珠光沢を有し、
主にピンク・黄・白の殻色を持つ美麗種。
「夕潮貝」という名も含めて、夕日で有名な
父母ヶ浜を象徴する種であると考え。



殻 高
1.5cm前後

アラムシロ
(ムシロガイ科)

小さくて目立たないが
個体数の多い
肉食性巻き貝。



殻 幅
20cm近く

マガキ(イタボガキ科)

個体数が多い岩礁性の二枚貝。



殻 高
3.5cm前後



殻 幅
5cm前後

ケガキ(イタボガキ科)

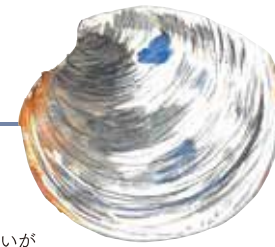
個体数が多い岩礁性で
黒い刺のある二枚貝。



ホソウミナ
(ウミミナ科)

個体数はやや少ないが
見つけやすい砂浜の貝。

殻 高
3cm前後



殻 幅
8cm前後

カガミガイ(マルスダレガイ科)

大きくて目立つが近年減少している
純白できれいな二枚貝。



殻 幅
2cm前後

サクラガイ(ニッコウガイ科)

やや小さくて目立たないが
ピンクできれいな砂浜の二枚貝。

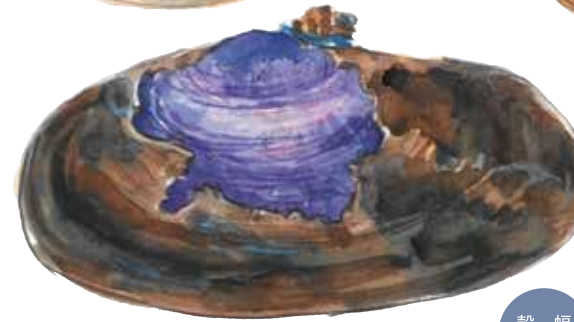
殻 幅
8cm前後



殻 幅
8cm前後

ハマグリ
(ニッコウガイ科)

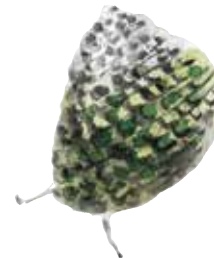
大きくて目立つが
近年減少している
二枚貝。



殻 幅
10cm前後

ムラサキガイ(シオサザナミ科)

殻長100mmを超す大型種。
殻は横に長い楕円形で、殻表は黄褐色の殻皮を被る。
幼貝から成貝まで殻は見かけるが、生体は深く砂に潜っており、
見かける機会はほとんど無い。
生息数もあまり多くはないと思われる。



殻 高
2cm前後

イシダタミ
(ニシキウズガイ科)

個体数が多く見つけやすい
岩礁性の巻き貝。



殻 幅
5cm前後

ツメタガイ(タマガイ科)

丸みが強いまんじゅう形をした種で、
普段は殻を軟体で覆っている。
砂に浅く潜って移動し、移動した後は
幅の広い独特な這い痕を残す。
肉食性で他の貝類を襲って食べるが、
一方で食用ともなり、
潮干狩りの際に採取されている。



イソシジミ
(ニッコウガイ科)

近年減少の著しい
汽水性で
紫色の二枚貝。

殻 幅
4cm前後



殻 幅
2cm前後

イシマキガイ
(アマオブネガイ科)

個体数の多い汽水性の巻き貝。



殻 幅
10cm前後

フジナミ(ニッコウガイ科)

大きくて目立つが
近年減少している紫色の二枚貝。

守って
いきたい!

父母ヶ浜の 甲殻類

Crustacean

砂浜にたくさんある
小さな穴や小さな砂団子は
なんだろう??



答え

それはスナガニ科のカニたちの巣穴です。スナガニ科に属するカニたちは、潮が満ちて水でいっぱいになった砂浜の巣穴を、昼間、潮が引いた時に一斉に団子状に丸めて穴からポイポイ捨てていくという習性があります。



マメコブシガニ(コブシガニ科)

小柄なカニで、雄で甲長22mm、甲幅21mm程度。コブシガニ科の特徴として、甲羅は丸っこくて背面に盛り上がり、歩脚は短めで目窩と目柄はいずれも小さい。

甲 幅
2cm前後



甲 幅
3cm前後

スナガニ(スナガニ科)

水のきれいな砂浜に生息し、満潮 緑付近に数10cm-1mほどの深い巣穴を掘る。

昼は非常に警戒心が強く、走るスピードはカニ類トップクラス。人間の小走りくらいのスピードで砂浜を疾走することができる。



甲 幅
4cm前後

クロベンケイガニ(ベンケイガニ科)

脚は毛むくじゃら。夜行性で動物の死骸を食べる。



コメツキガニ(スナガニ科)

砂浜の潮間帯に深さ10-20cmほどの巣穴を掘る。春から夏にかけては、ウェービング(Waving)という求愛行動がみられる。この行動が白と杵で米をつく動作に似ていることが、和名の由来となった。

甲 幅
1.2cm前後



甲 幅
4cm前後

ヤマトオサガニ(スナガニ科)

軟泥地に生息。甲は横長の四角形で、甲長4cm。甲長と甲幅の比はほぼ2:3。眼窩 外歯のすぐ後方に深い切れ込みが、前側縁第1歯の後方にも浅い切れ込みがある。日本全国に多産。



直 径
1~2cm

シロスジフジツボ(フジツボ科)

内湾性で、特に河口付近の岩礁や、橋の橋桁などに群生して固着し、低塩分濃度によく耐える。本州各地から台湾、中国に分布する。



ヒメアシハラガニ(イワガニ科)

甲幅20mmほど。生体の体色は緑褐色で、全身に細かい白斑がある。相模湾以西の西日本に分布し、河口域の軟泥干潟に巣穴を掘って生息する。アシハラガニに比べて肉食性が強く、ハクセンシオマネキやチゴガニ等を捕食する。

甲 幅
2cm前後



メス



オス

ハクセンシオマネキ(コブシガニ科)

オスの片方の鋏脚が極端に大きい、いわゆるシオマネキの一種で、白っぽい体色が特徴。上はメス。

甲 幅
2cm前後



アシハラガニ(モクスガニ科)

潮の引いた砂泥上で活動するが、昼よりも夜が活発。食性は雑食性。本州以南に分布する。

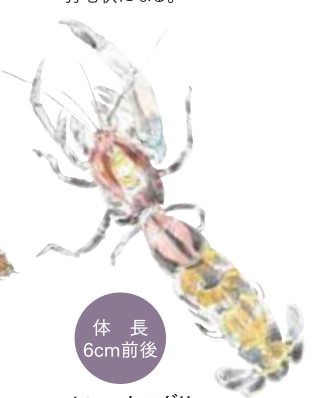
甲 幅
3cm前後



甲 長
1.5cm前後

ユビナガホンヤドカリ(ホンヤドカリ科)

日本産ヤドカリ類の中では小型の部類に属する。鋏脚(第1胸脚)は右側が大きい。類似種のテナガツノヤドカリは左の鋏脚が長く第2触角が羽毛状になる。



体 長
6cm前後

ニホンシオマネギ(シオマネギ科)

脚は毛むくじゃら。夜行性で動物の死骸を食べる。

守って
いきたい!

父母ヶ浜の 昆虫類

Insects

キアゲハ
(アゲハチョウ科)
海岸植物から高山植物までを
含むセリ科植物を食草とする
ため生息地は幅広い。

出現時期
4~10月

大きさ
約80mm

コウベキヌゲハキリバチ
(ハキリバチ科)
海浜性種。
ハマゴウの花を吸蜜する。
(海浜植物と共生する)

出現時期
7~9月

大きさ
約10mm

ホシホウジャク
(スズメガ科)
幼虫はヘクソカズラを食べる。
風行性でハマゴウなどの花で、
ホバリングしながら長い口を
伸ばして吸蜜する。
胴体が太く、素早く羽ばたいたので
ハチドリのように見える。

出現時期
7~11月

大きさ
約50mm

アカゴシベッコウ
(クモバチ科)
腹部の付け根(腰)が
赤いのが名前の由来。
草の株元あたりを徘徊して、
獲物のクモを探索している。

出現時期
4~10月

大きさ
約10mm

マツムラメンハナバチ
(ムカシハナバチ科)
海浜性種。ハマゴウの花を吸蜜する。
(海浜植物と共生する)

大きさ
約7mm

モモトトビロ
サシガメ
(サシガメ科)
海浜や沿岸地域の
乾燥した草原に
生息する。

出現時期
3~11月

大きさ
約16mm

モンシロチョウ
(シロチョウ科)
畑などの身近な環境で
よく見られるチョウ。
幼虫は各種アブラナ科
植物の葉を食べる。

出現時期
3~11月

大きさ
約32~
47mm

クマバチ(ミツバチ科)
体が大きく羽音の印象が
強烈であるため、
臙猛な種類として
扱われることが多いが、
性質はきわめて温厚。

大きさ
約20~
30mm

出現時期
晩春~晩秋

ウミベアカバハネカクシ
(ハネカクシ科)
砂浜に生息する。主に漂着したヨシや海藻の
下に潜んでいる。汽水域の浜にもたくさん生息する。
上翅が赤く、あまり光沢がないことが特徴。

大きさ
約12mm



ナナホシテントウ(テントウムシ科)
成虫越冬。早春から活動する。
かわいらしいイメージであるが肉食性の昆虫で、
成虫・幼虫ともに植物に付くアブラムシを食べる。

出現時期
3~11月

大きさ
5~9mm

ハマヒョウタンゴミムシダマシ
(ゴミムシダマシ科)
海浜性甲虫。海岸の砂浜に生息し、
漂着物の下に潜んでいる。

大きさ
約4mm

セイヨウミツバチ
(ミツバチ科)
もともとヨーロッパからアフリカ、
中近東にかけて分布していた
種類が、養蜂に利用するために
家畜化されたもので、
日本には北米経由で移入された。

出現時期
3~11月

大きさ
約13mm

ツヤケシウミベ
ハネカクシ
(ハネカクシ科)
海浜性甲虫。
海藻の下に生息。

大きさ
約15mm

ネジロハキリバチ
(ハキリバチ科)
準海浜性種。
ハマゴウの花を吸蜜する。
(海浜植物と共生する)

出現時期
7~9月

大きさ
約15mm

マダラゴモクムシ
(オサムシ科)
良好な海岸から
つながる草原で
見つかる傾向にある。
父母ヶ浜では、
防潮堤の後背側の
陸地寄りや荒地のような
場所に生息している。

大きさ
約9mm

出現時期
春・夏・秋



シロスジフトハナバチ(ミツバチ科)
状態の良い自然海岸で見られる。
成虫はハマゴウなどの花を訪花する。
個体数は非常に少ない。ウスルリモンハナバチ
に労働寄生されると言われている。

出現時期
7~9月

大きさ
約12mm

オオモンツチバチ
(ツチバチ科)
幼虫はコガネムシの
幼虫を食べ、
成虫は花の蜜を吸う。

大きさ
約20mm

出現時期
7~10月

オオスナゴミムシダマシ
(ゴミムシダマシ科)
海浜や河口付近の自然食性
がのこっている砂地に生息
する。昼間は砂の中にもぐり、
夜に這い出て、海浜植物
などの落ち葉をかじる。

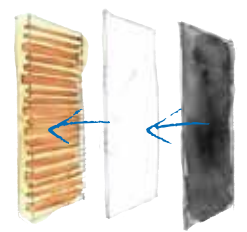
出現時期
春・夏・秋

大きさ
約13mm



ハチは自然界や私たちの生活に不可欠!

植物の多くは誰かが花粉を運ばないと子孫を残せません。私たちがいつも美味
しく食べている農作物も花粉を運んでくれる生物たちのおかげなのです。
花に集まる昆虫の中でもハナバチの役割は大きいと言われています。近年、私た
ちの生活にとっても大きな役割をしてくれるハナバチが著しく減少しています。こ
のような現状を危惧し、「NPO法人 みんなでつくる自然史博物館・香川」が観察
できるハチの家を作り、設置する企画が進められています。



スギ板 透明塩板 遮光板

守って
いきたい!

父母ヶ浜の 鳥 類

Birds



全 長
25cm前後

イソヒヨドリ(ヒタキ科)
磯や岩場に多く生息していて、ヒヨドリに似ていることが、和名の由来。
食性は、おもに地上で餌を探し、甲殻類や昆虫類、トカゲなど、いろいろな小動物を捕食する。

チュウダイサギ(サギ科)
体長は90cmほどで、日本ではアオサギと並ぶ最大級のサギ。
全身の羽毛が白色。白鷺の一種。冬には亜種オオダイサギ(ダイサギ)が越冬する。

全 長
90cm前後

オオメダイチドリ(チドリ科)
メダイチドリに似ているが一回り大きく、嘴と足が長い。日本では、海岸や河口に近い干潟、砂浜に生息する。南西諸島以外では1羽でいることが多い。

全 長
19cm前後



全 長
17cm前後

シロチドリ(チドリ科)
砂浜や干潟、中流域の河川敷、湖、池沼などに生息する。日本では夏季に繁殖のため飛来する(夏鳥)が、本州以南では周年生息(留鳥)する。

全 長
70cm前後

チュウサギ(サギ科)
全身は白く、足は全体が黒くて眼先が黄色。ダイサギに似るが、体長が小さいこと、嘴が短いこと、眼下に入る口角の切れ込みが眼の真下で止まるところで区別できる。

全 長
50cm前後



ウミネコ(カモメ科)
一年中、群れて生活する。

セグロカモメ(カモメ科)
日本では冬鳥として渡来し、最も普通にみられる大型カモメ類。

全 長
60cm前後



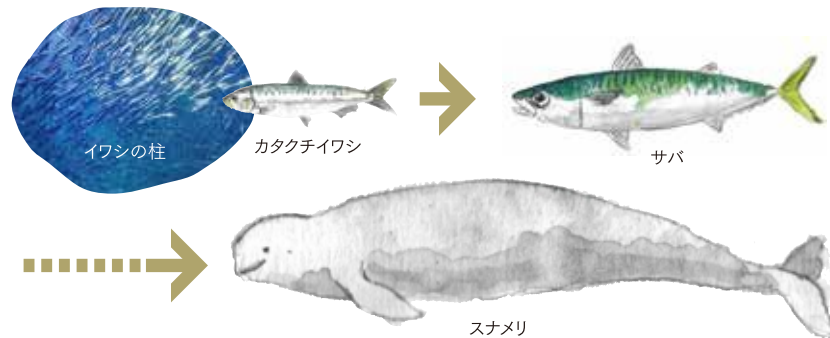
全 長
20cm前後

イソシギ(シギ科)
主に河川や湖沼の周辺に生息するが、非繁殖期には干潟や岩礁海岸にも生息する。

ミサゴ(ミサゴ科)
主に海岸に生息し、近くの山にある高木のマツの樹上に営巣する。主に魚類を食べ、ため池、河口等でも採餌する。水面をゆっくりと低空飛行しながら獲物を探し、獲物を見つけたと素早く翼を羽ばたかせてホバリング飛行を行った後に急降下し、水面近くで脚を伸ばし両足で獲物を捕らえる。

父母ヶ浜沖で会えるお魚たち

父母ヶ浜の沖合に県内最大のイリコ漁場である伊吹島があります。周辺海域にはイリコだけでなくサバやイカなども多く獲れ、それら魚介を餌にする瀬戸内海洋生物の頂点にたつスナメリも生息しています。



父母ヶ浜で 遊ぼう!



潮溜まり生き物観察



砂山くずし



砂のお城づくり

気持ちのいい細かな砂、きれいな海のある父母ヶ浜では自然遊びもできます。日焼けに気をつけて砂浜での遊びを見つけてみてください。遊んだ後は、しっかり手洗い、足洗いをしてくださいね。



貝殻拾い



砂にお絵描き

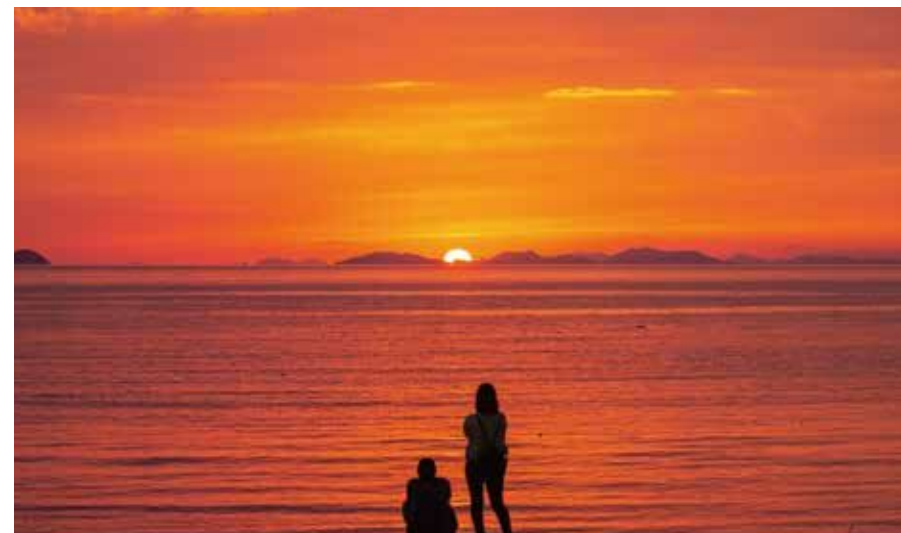


カニの砂ダンゴ探し



マテ貝掘り

父母ヶ浜の絶景写真館



干潮時に風がなく水面が波立たなければ、砂浜にできる潮だまり(水たまり)に、天空を映し出す鏡のような光景を見ることができます。さらに夕方の頃には一層美しい光景が広がり、その美しい夕陽は「日本の夕陽百選」にも選ばれた事があります。



漂着物のおはなし

美しい父母ヶ浜を守るために

人々があまり利用しないシーズンオフや早朝に海岸を見てみてください。
思った以上にたくさんのごみや漂着物が漂着していることに気づくことでしょう。
海洋ごみの中にはプラスチック製品等の人工物が多くあり、環境汚染だけでなく、私たち人体への悪影響を及ぼす「マイクロプラスチック」の発生の原因となるものがあります。未来の地球のためにごみを捨てない、海岸の清掃活動に参加する、など身近にできることはたくさんあります。



ちちぶの会のヒーロー はやお 速雄さん

「ちちぶの会」は瀬戸内でも数少ない白い砂浜を未来に残したい、稚魚が育つ漁場として大切に守って行きたいという思いで、平成7年(1995年)に7名で清掃活動を始めました。
現在でも毎月第一日曜日に清掃活動を続けています。



会員の一人、河田速雄さんは25年以上にわたり、暑い夏も、寒い冬も、雨の日も風の日もほぼ毎日、朝から夕方まで浜に出て、清掃活動や観光で来られる方へのご案内を続けていらっしゃいます。
信念をもってひとつのことを続ける河田さんに心から敬意を表したいと思います。



終わりに

この環境学習BOOKで父母ヶ浜の歴史や生き物、環境について学んできました。
今回の学びを通して、次世代にこの美しい自然を伝えるために、
あなたにできることをぜひ考えてみてください。

わたしの誓い

あなたにとっての父母ヶ浜はどんな浜ですか？

父母ヶ浜のために

わたしは することを
 ぼくは を 誓います。

父母ヶ浜がいつまでも、
 みんなに愛される美しい海岸でありますように。